

予報期間 12月22日から12月28日まで

◆今期間のポイント

＜主要しょう乱の概要＞

- 24日は、低気圧がサハリン付近へ進み、前線が日本付近へのびる。
- 25日は、低気圧がオホーツク海へ進み、前線が日本の東へ進む。
- 26日から27日は、大陸の高気圧が日本付近へ張り出し、冬型の気圧配置となる。
- 28日は、高気圧が北日本付近へ移動する。日本の南は気圧の谷となる。

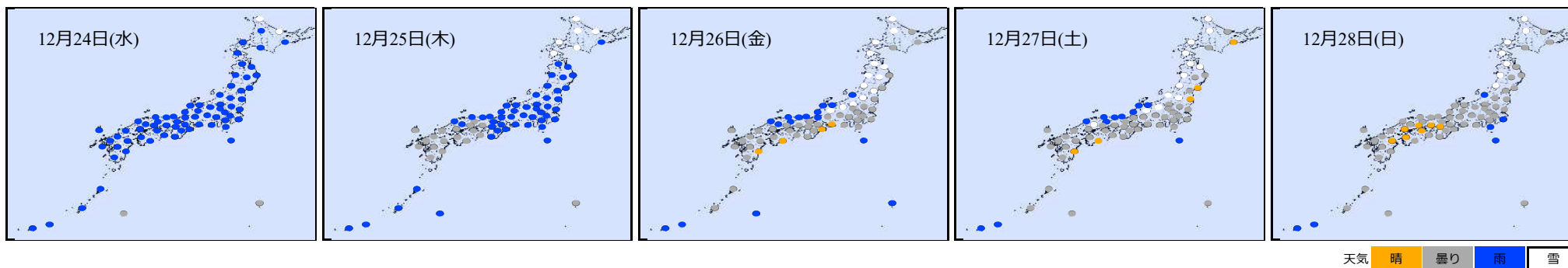
＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

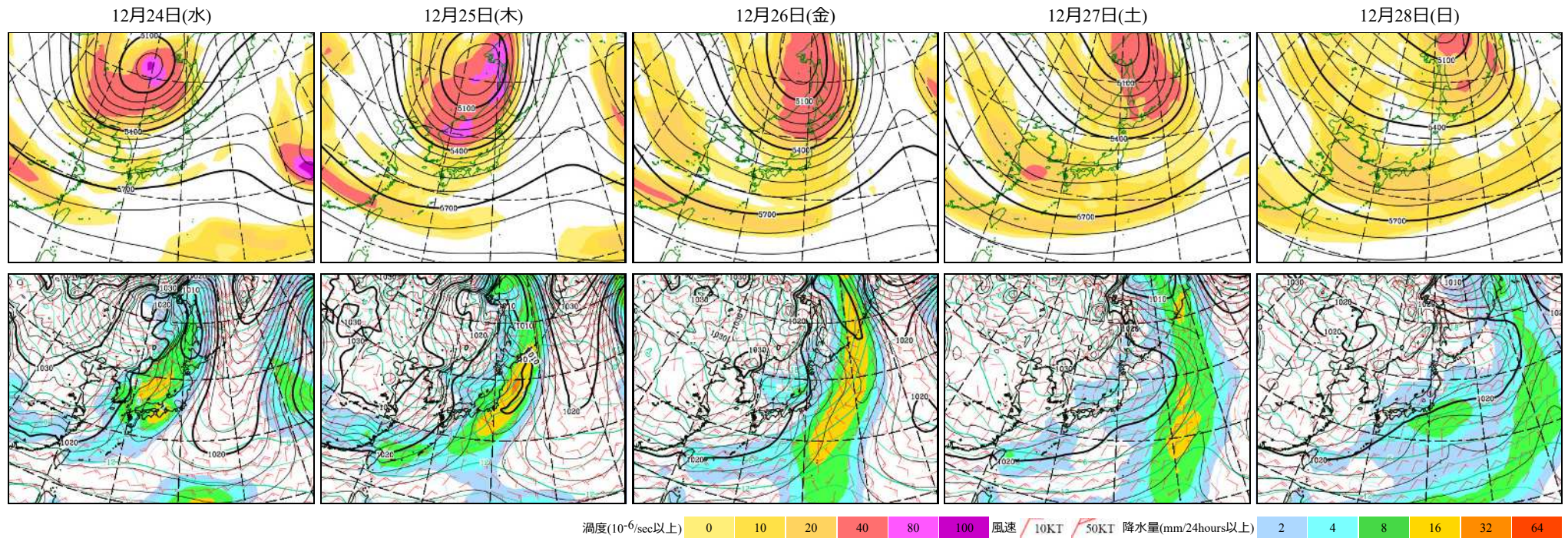
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

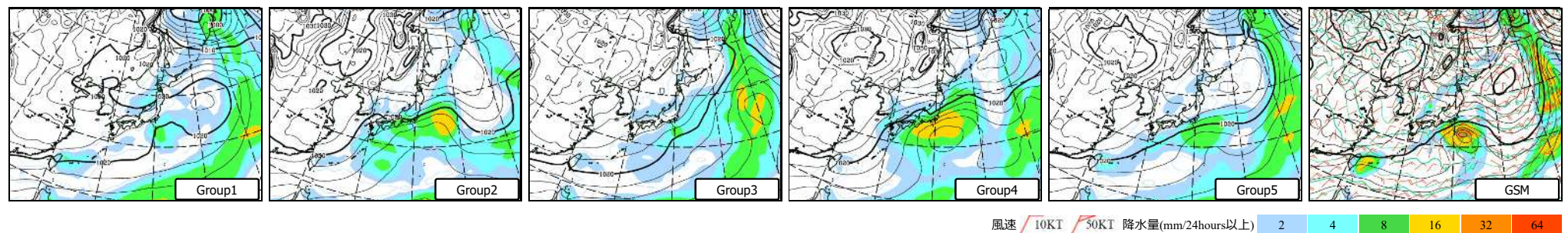


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雨または雪の降る日が多い。
- 東日本から西日本にかけての太平洋側は、曇りや晴れの日が多いが、24日から25日は雨の降る所が多い。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆12月28日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、25日は日本海の気圧の谷が明瞭となった。また、26日は日本付近のトラフが深くなり、寒気の南下が強まったことに対応して、日本海側の降水確率が大きくなった。27日から28日は、日本海から日本の東へ張り出す高気圧の勢力が強まった。
- 各モデルとも、25日に寒冷渦がアムール川中流付近へ進む予想はおおむね揃っているが、その後の寒冷渦の動向や日本付近のトラフについては、モデル間の差があり初期値変わりも大きく不確実性がある。28日は伊豆諸島付近に低気圧を予想しているメンバーやモデルがある。
- スプレッドは比較的小さいが、期間の終わりは5400mの特定高度線のばらつきが大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。